

特別
16
2282
2





ト
度
ル
格

一
刀
半
...

門 二 10
號 2282
卷 2

特

ヲ
邊
5
1961
又



度尔格國一名「トルケイエン」又名「オットマンニセレイキ」と云「オットマン」を則
 其姓祖の名之其地極て大なりて亞細亞歐羅巴亞弗利加の三洲乃間を跨り
 二十五所小大鎮を置さ「バササス」「サンギアクス」等の官を署せられをあたひ
 其國都を「コンスタンチノレ」と云歐羅巴洲の東南極界に在て亞細亞洲と
 一海峡を隔てり其俗勇を好み兵を用ゆること恒にやまぐ併せ有る所の國
 甚多しと云ふ

馬加撒尔



マカッサル
 馬加撒尔の印度東南海中の大島なり其地赤道の下なり故に氣候冬熱
 物産豊饒なりて米穀椰子黄金象牙白檀諸菓多し此國中馬加撒尔と
 食カ百私との二王ありてこれを分ち治るる也

般 朶



人物考卷之七

〇〇
三



亞貴利加

槃^ハ朶^ダ一名^ニバンダ・ロントル^トといふ其島蘇門答刺^{スマタラ}等の諸島^{シマ}に近^{チカ}し其地大
 なる^{オホシ}といふもの物産極^{タマシ}て富^{トク}く珠^{イサナ}多^{オホク}く肉^{ニク}豈^{ツツ}菟^ウを産^{ウツ}らる^ルと天下^{テンカ}に名^ナ有^{アリ}
 今和蘭^{オランダ}の人此島^{コノシマ}を併^ヒせたりとて三^ミの城^{シロ}を築^キけり



人物傳卷之十一

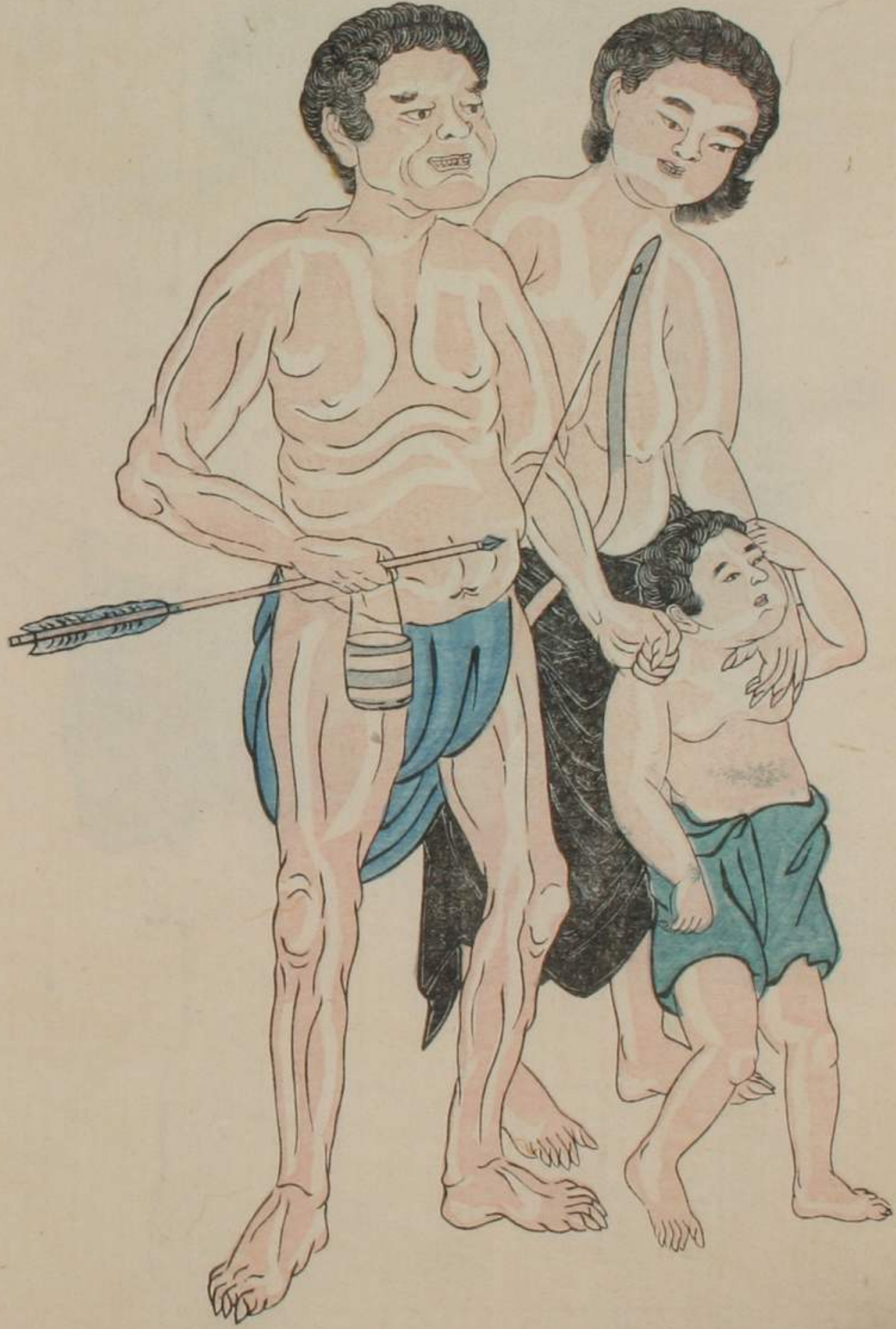
三

其地を詳々

萬國人物圖より
亞費利加ハ
利未亞の肉多
大國あり四季ありて
暖和多く一年のうち寒氣
少く米麥肥饒ある國なり

カッ
拂
里
カ
フ
リ





加拂里国本名「カツフルス」又「カツハリア」と云ふ亞非利加洲南界の大國ありて
其北ハ馬^モ拿^ノ莫^モ大巴^タ國^{クニ}小連あり其他の三面ハ皆大海ニ臨む此地^キを^シん^ズ
君長法度居室等^ツありと云ふ其人^ノ蟻^{アリ}髮^ヘ平^ヘ鼻^ハ厚^ク唇^ヲありて黯^ク黒^ク色^{ナリ}あり
風俗極て陋^クく^シて殆^トど會^キ歎^クの如^ク常^ニ青^ク草^ヲ及^シ草^ノ木^ノ根^ヲを^シ堀^テ常^ニ食^スふ
充^ルリ且^ニ火^ヲ食^スを^シ知^ラず^バ肉^ヲを^シ得^ルべ^シ其^ノ臍^ヲ併^シせて^シあ^レを^シ食^スふ今^ノ波^ル尔^ト
杜^ト瓦^カ尔^ルノ人^ニ其^ノ東^ノ方^ノ海^ノ邊^ノノ地^ヲを^シ有^リち和^蘭ノ人^モ其^ノ南^ノ邊^ノノ地^ヲを^シた^もち
城^ヲを^シ築^キと^シ酋^長を^シ置^テて^シあ^レを^シ鎮^シせ^り此^ノ所^ヲを「カア^フ・テ^ル・グ^ウ・テ^ホ・テ^フ」
と^シ云^ふ是^レ歐^羅巴^ノ例^ノより東^ノ方^ノ諸^國小^ノ通^ヲを^シ往^來ノ要^路ナ^リ

為^ゴ子^ア匿^ア亞



為^ア匿^ア亞^アハ^ア亞^ア弗^ア利^ア加^ア西^ア方^アの大^ア國^ア也^ア其^ア西^ア南^ア海^ア至^アり^ア東^ア北^アハ^ア皮^ア亞^ア法^ア臘^アニ^アキ
 リ^アシ^アア^ア等^アの^ア國^アニ^ア接^アヒ^ア此^ア地^ア氣^ア候^ア最^ア熱^ア物^ア産^ア豊^ア饒^ア也^ア米^ア麥^ア綿^ア花^ア甘^ア藷^ア黃^ア金^ア
 象^ア牙^ア孔^ア雀^ア等^アを^ア産^アヒ^ア土^ア人^アハ^ア其^ア色^ア甚^ア黒^ア性^ア靈^ア慧^アなり^アと^アり^ア少^アく^ア盜^ア心^ア
 今^ア和^ア蘭^ア諸^ア厄^ア利^ア亞^ア身^ア那^ア瑪^ア尔^ア加^ア等^アの^ア人^ア皆^ア此^ア海^ア邊^アの^ア諸^ア列^アを^ア併^アセ^ア有^アて
 各^ア數^アり^ア所^アニ^ア城^ア郭^アを^ア築^アけ^アり

人物傳卷之十

人物傳卷之十

比里太尼亞



比里太尼亞のれ 額利太尼亞の誤りやして古の國の名あり其地亞非利加例よ
 屬を乃今の馬邏可弗沙等の地なり此二地皆巴利西亞の西邊にあつて
 歐羅巴と地中海を隔つ其馬邏可の勢ひ甚盛なりて弗沙及其鄰傍
 皮カエル熱利土の諸國も多かるるれは臣服を其地多く銅及び巴且杏
 蜜蠟駱駝を産む此國王を弗沙の地ふ都せしが今ハ「メク井子ス」
 地ふ都をせよ此國王を稱して亞非利加の帝といふ

一カ屏卷

人物卷

莫斯科末亜



莫斯科末亜一名魯西亞ロシア其地歐羅巴洲の東境にありて地方を以て
 廣大ありてその地國人風俗野鄙ヤハヒにして理義を達せざりて文学を知らず
 ありしか此邦の寛文十二年に於て其帝「ペトル・コロラト」生る此帝才徳
 世に絶し國人を教化し文学諸技藝を習はせしむるに悉く旧俗の汚俗を
 革むる國を富し兵を強く西に彼羅尼亞を服し雪際亜の諸地を奪ひ
 南に度ル格を破り小韃靼を降し東に大韃靼を併せて沙漠より北の方
 氷海に傍て蝦夷の東北「カムシヤトカ」の地に至るまで皆其列郡とありて守を
 置てらしむを治めしむ故にいま天下才一の帝國とありて地の廣大あり
 あり他邦及びぶものなりと云ふ

エ答里亜
コシドラリア



エ答里亜の一名公多辣又名「コシンスケイ」といふ其地山林多し
よく諸種の獸畜を産む昔の一種の自立の国主ありし今も莫斯
哥末亜國に併せらるゝ其列郡とあり恒ふ諸般の皮革を貢ぐといふ

大泥亜



大泥亜国一名第那瑪尔加デナマールカといふれ上古の世に聖人諾厄ノアの孫「ダニユス」あり
 のをいめて此地に王たるふ因て乃其国號クニナメとを歐羅巴の北海に修シユノル勿惹ウツシ亞
 匪馬ヒマルカル加、依蘭地エイランランド、臥兒ウイランド、狼德ラング等諸国皆其列郡たり且亞細亞アジヤ、亞非利加アフリカの地あり亦
 其属国ゾククニありて國勢甚盛あり國王の都を「コペンハーゲン」といふ美廉メイレン繁華はんかの地く
 土人の天資テンシ勇猛ゆうまうなること諸邦しよほんに名有りて其性甚善良ぜんじやうぜん好んで格物窮理かくぶつきゆうりの
 学がくを修むといふ

翁加里亞



翁加里亞別名「ウングララ」古名「マニヤ」といふ其地歐羅巴の南邊にありて
 大国あり中小翁加里亞、下翁加里亞、スラホニア斯刺勿泥亞の三部を分り物産富饒ありて
 多く金銀銅鉄諸穀諸菓蒲萄酒牛馬諸畜を産を此国古より自立の王
 ありて「カッヘ」の地ふ都して勢ひ甚盛ありしが今ハゼルマニア入ル瑪尼亞の帝に列郡
 とあり帝都より守をあたて是を治せり

波羅尼亞



波羅尼亞 別名「ポルスカ」和蘭の人の「ポオレン」といふ其地入ル馬尼亞の東に
 ありて大國なり氣候寒しといふも牛馬諸畜諸穀山鹽麻巢蜜蠟琥珀等
 多く産を主人性善良温和なりてよく諸藩と通を此國の諸王侯皆子孫
 世及るものとありて徳あるものを推て位を嗣む其總王の都を「カラコ
 ウ」といふ「ウエイキセル」といふ河流は條々近世よりして多々の莫斯哥
 未亜國の政令を受く

意太里亚



意太里亚国别名「ワルセランド」といふ歐羅巴洲中の大國なり其西北に「アルビ」と
いふ大山をのりて「ヘルマニア」「ヘルカ」「マシア」「フランス」等の諸國と界を分ち其他の
皆地中海に接り此地氣候極て融和な土地甚豊饒物産殷富なりて國
用一つも欠くところあり故に稱して天下の樂土といふ土人の天性靈慧ありて
星曆音楽畫圖諸技藝を精しく其地土木造建百工器械を至るまで其
巧妙他國に勝まるといふ

齊ゼ爾ル瑪マ尼ニ亞ア



齊ゼ爾ル瑪マ尼ニ亞ア國古名亞アレ勒レ馬マ尼ニ亞アと云其主人自稱曰「デウウッセララド」と云和蘭の人の「ドイツツラランド」と云これ上古の世より「アシシヤニ」一名「テララトトク」といふ人をもて此地に王たりて
 周て其國號となをありけ地甚大なりて北は海に至り其地は和蘭、佛郎、意太里亞、
 赫ヘルルル勿ハ萋シ亞ア翁ウ加里カ里リ亞ア波ボ羅ロ泥ニ亞ア等の諸國に接と此國王は古より歐羅巴總列正統
 の帝なりて始に意太里亞國の邏馬ロママの地より都一中右よりて此國の「王子」といふ所
 都をいひせり此都の廣大美廉ありと紙筆はほくもくぐ國內分て十道とを其中心
 諸侯甚多皆帝を輔タシシ政を行く其地隣傍の博ハ尼ニ美ミ亞ア翁ウ加里カ里リ亞ア「セーヘンベルケン」
 弥ミ郎ラ等皆其列郡とありて帝都より守をいひて此地はとて氣候融和なりて人物蕃盛
 土地肥沃諸穀諸菓金銀銅鉄其他山川の産物とて是れより主人はよく格物
 致知医学諸技に通せり

拂郎察



拂郎察国一名「フランス」昔名「ガツリア」とも其地北ハ「子デルラント」及海は
 至リ南ハ一面地中海は際一西ハ一面ハ北勃擲何山を以て伊斯坦把你亞と畏を
 分ち西ハ大洋ふ條を東ハ意太里亚、入ル瑪尼亞等の諸国は接して甚だ
 大國あり国内は十二道とを其王都を把理斯と云ふ美廉敏花の地あり
 氣候融和土地豊饒ゆて多く諸穀麻桑葡萄酒阿利襪油諸菓諸畜
 を産む土人の性勇猛ゆてまよよく文学諸藝を發免兵威はよく盛ん
 なると諸国ふ名あり



人物卷六



阿
蘭
陀

人物卷六

六

阿蘭陀國西語「オランダ」其地の總名を「子デル・ラント」といふ中み十七列を
 コロの其十列を「ケイゼル・レイキ・子デル・ラント」といふ多くの入ル瑪尼亞の
 帝は屬し又或の拂郎察國に屬せるものあり其七列の「フルエーニフテ・子デル・
 ラント」といふもの自立の主ありて其地を治む阿蘭陀の其中の一列なりと
 りくも此德國開基の初地なりて且其國主の都城「ハアガ」此列中よりあり
 故に又もこの德國の地も用ゆ此地よりて寒多く暑少くといふもの土地
 肥沃してよく諸物を産し其人性機巧靈慧して諸技に通し専ら
 航海交易して四大洲中み至らざる國あり是を以て民物豊饒兵馬強
 盛なりて伊斯把你亞、拂郎察等の諸大国と並ぶ稱せらる

アンゲリア
インギリア



諸厄利亞国を和蘭の人呼ぶ「エングランド」とも歐羅巴洲中の一の大島なりて
 總名を「ゴロカト・ブリタニア」とも分て二国とを南に乃諸厄利亞なりて中
 八道を分ち五十二列を統ふ北にのものを思可齊亜とも中又南北に二部を
 分ち三十五列を統ふ又西の方海を隔て意而蘭大とらるる大島なり初め
 各国者英、戈、ありて三部を併せて下たる此國氣候常和土地肥沃あり
 諸穀麥酒五金駿馬羊毛石炭等を産む土人の性勇猛ありて靈慧あり
 文學諸技に通じよよく航海して水戦に長せり国王の都を「ロンドン」と云
 「テエムス」とらるる大河の側は在て其美麗富饒ありと諸國に名あり

阿勃戀



アロレン河の名ありて此名の明人の誤り譯せるあり此大河の本名亞瑪作擲
 一名阿勃利亞那と云ふ此河亞瑪作擲国の地を長く廻るゆへに名づく
 亞瑪作擲国の南亞墨利加洲の大国ありて其中央より土地廣大ありて其
 人物風俗一ち凡る凡る百五十餘種あり故に其人性善良ありて和愛親睦あり
 けり或は其地荒曠あり其俗野鄙ありけり大抵今に至るも尚多くを
 邪魔を山宗奉と云ふ此地熱帯に係るゆへに氣候燠熱して花菓終歲絶ど
 椰子烏木蘇木沙糖綿花絨帛程々能を産するの小虫等あり

加拿林



此國名詳あぐ本書より曰、此國名一名加納連と書ると記せり明の時乃
 利艾二氏の萬國圖を閱するに如此の國名ありこれ今誤字の本を用
 ゆりの故りて加拿達カナダ作獨あること疑を容るべし加拿達は北亞墨利加、東
 遙の大國あり別名新拂郎察シンフランと云ふこれ拂郎察國の入始て此地を闢てこれを
 有の故り此名有り其地氣候甚寒く風俗賤陋ありこれ諸海獸の皮草を
 夥しくフランスの本國に輸して諸物と交易を

亞尾
的草



此國名亦詳あぐ本書より曰、此國あり馬尾的草と云ふ今西番及利氏艾氏の
 二圖よりこれを考ふるに尾的里草の誤ありと疑へり此尾的里北亞墨利加
 例の新伊斯把亞の属列あり其地頗る大あり伊斯把亞人此地を併せ有ちて
 所々城邑を築ち土産獸畜甚夥あり美棧ありこれを以て多く海船を
 造るなり

伯刺西
刺西
伯刺西
刺西



伯刺西^{ブラシリア}國此地本名「ブラシリア」又「ブレシル」といふ其地極て大めて南^{アン}垂^リ墨^リ利^カ加の
 東より此國氣候温暖土地豊沃ゆてよく諸物を産を其人種類一ふゆ
 多^マく凶^{キウ}暴^{ボウ}無^ム頼^{ライ}み^ミて君長文物法度なく^{オウ}惟^ウ魔^マを^{オウ}祭^{サイ}り人を殺^{コロ}し食^クふことを
 好む今の^ポ彼^ル社^{トル}毛^ガル^ル國より其海遠二千里の地を併せたり十四^シ而^ニ守^シ令^ヲを
 置てこれを治めて諸部を教化し其人^キ次^ジ才^{サイ}又^マ理^リ義^ギを^キ兵^{ヘイ}知^チる者多し

ハカ...

六二

撒兒木

本書ガルモ又

ザレとも略

称を西天竺の

北方より寒地

ありといふも

余北草いまま

考る所なりん



小人

西書を按ぶるに韃靼の北海遠く国よりサモエデに

と云ふ阿比河及び「エニシカ」河は傍り国内山林多し

土人の形軀短小にして性質野陋乾魚及び麩を

以て糧食に充つ今莫斯科未垂国より其を治め

其土人の教化を施す又其北「ワイガット」といふ

海峡を隔て一国なり新增白蟻といふ其人形軀

短小して所居の家屋亦いふ所は鳥羽或いは

海獣の皮を以て衣とし日月を以て神と

あて恒小なる祈禱をすといふ



リ



八
勿
母
子
不

六
四

リ

ナ
ウ
シ
ン
長
人



八
勿
車
老
翁

南亞墨利加の南界を總括して「テルラマゲッラニカ」と云種類一あり其人は
多し強暴野鄙して理義を知らず歐羅巴の人よりも此地を開て別縣を
ことあり或は好むて人を食ふなり或は草木の根を掘て餅とあけて常食す
亮子のあり其南邊の一種を巴大温と名く其皆身甚長大く其足形最も
異あり風俗も亦極て野鄙なりと云

長人

坤輿外紀

南懷仁

長人國又名智地國地方頗冷人長一丈許遍體皆毛持弓矢長六尺
每握一矢挿入口中至沒羽以示勇男女以五色畫面為文旃曾掘地
得人齒洞三指長四指餘蓋昔時人更長矣

一光齋画



訂正四十二國人物圖說附言

一庚申ノ夏同案但木子觀諸蠻人物圖一軸ヲ以テ余ニ示ス借テ家ニ帰リ
一日コレヲ一友人ニ謀ルニ此長崎淵梅軒求林所撰四十二國人物圖說
ヲ摸寫セルモノナリト因テ其書ヲ得コレヲ見レバ正徳年間ノ作ニシ
テ上下ニ卷アリ劉善聰其首ニ序スルノ文ヲ讀ニ此圖原紅毛蠻ノ傳ル
所ニ出ツ蓋其船自交易或被風飄到或耳所確聞也起震且迄長人計四十
一國也後我邦之人明清兩朝人物ヲ補寫ス故ニ名クルニ四十二國ヲ
以ストイフ頃口峯山羨藏スル所ノ一軸ヲ見ルニ圖ハコレト全ク同ク
但其初ニ崎港ニ入津スル所ノ唐山和蘭ノ商船二圖アリ且各國ノ地名
ヲ記ノ其諸說ヲ省略ス序ハ唐通事某ナル者撰スルモノナリ曾テ和蘭
譯司吉雄氏ノ獲テ謄寫スル所トイフコレ亦其原圖西川氏ノ輯ムルモ
ノニ依テトルモノナルベシ余今此等ヲ閱スルニ其諸國ハ原和蘭帶ヒ
来ルモノナルベシ其地名ハ西川氏明人ノ音譯スル所ヲ記シ附說ニイ
タリテハ唯傳聞スル所ヲ録スルモノ也今直ニ西說ニ就テ校考スルハ

稍疑フヘク又甚夕差誤スルモノ少ナカラズ門人山村子明ハ、幼ヨリ地
 理ノ書ヲ嗜ミ余ニ從テ西學ヲ習フ一十年アリ、從來其坤輿大地ノ諸説ヲ
 彼書中ヨリ譯定スル著撰頗多シ、余因テ生ニ命メ此圖説ヲ考正セシム
 乃某原説ヲ増減改定シテ、實正ノ略説ヲ毎圖下ニ附セシメ、前説ノ謬誤
 ヲ訂ス、諸觀者ヲメ其正ニ就カシメントシテナリ、其輿地精説ノ如キハ
 別ニ新譯スルモノ多シ、志アル者ユレテ請テ可ナリ
 一和蘭商船ヲ通スルノ諸例、何處此四十余國ニ止ランヤ、顧フニ彼人別ニ
 其到ル所ノ四大諸列、各人物ヲ圖記スルモノアルベシ、此圖ハ其十中
 ノ一トイフベシ、往時洋人偶此圖ヲ携來ル者アリ、西川氏好夏ノ性癖ノ
 傳聞ノ説ヲ附シテ、世ニ公ニスルモノナラン、余輩固ヨリ其諸列ヲ涉歷
 セストイヘ、凡其各土ノ人物ハ彼西方輿地外紀諸説ト合スルモノ多シ、
 必是妄聞漫寫スルモノニハアラス、彼三々圖會ニ載スル穿胸鳥衣等ノ
 妄誕奇怪ノ圖説ト、同フシテコレヲ看ルコトナカレ

何某誌

